



1. エントランスホールのシアリンク型ブレース
2. 3階ピロティ
3. 5階学生交流スペース



2



3

大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 概要

- 所在地 大阪府箕面市船場東3-5-10
- 建築主 (大)大阪大学
- 設計者 (株)日建設計
- 施工者 清水建設(株)
- 竣工日 2020年12月25日

- 敷地面積 5,999㎡
- 建築面積 4,338㎡
- 延床面積 24,896㎡

- 階数 地上10階
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページにアクセスして
ご覧ください。

化教育センターが併設され、五〇カ国から約一五〇名の留学生を受け入れているので、多国籍な交流が深められる仕掛けが数多く設けられており、活気あふれるグローバルなキャンパスライフが送られている。

もう一つの大きな特徴は、環境配慮への取組みだ。LEED-NC GOLDを取得していることから、高い環境性能を有していることがわかるが、更にリビングラボ(生きた実験室)キャンパスと位置付

け、学生自身が操作、体験、効果を感じながら、そこから得られる様々なデータを活用して、学生が勉学に集中できる学習環境「未来の教室」づくりの研究が進められている。このようなキャンパスづくりを推進しているのが、サステナブルキャンパスオフィスという組織で、環境・エネルギー部門とキャンパスデザイン部門からなり、とかく学部ごと縦割りになりやすい組織に、しっかり横糸を通すことで、縦糸と横糸がつむ

がれた繊維の街に相応しいキャンパスづくりには大きな役割を果たしている。今後、この新しい街は更に成長を続け、人口も増えていくであろう。そして、その街の中心で、グローバルな教育が展開されているということが、街のポテンシャルの向上に大きく寄与していくに違いない。地域とともにどのように共創し、成長していくのか楽しみである。



日建連表彰2023



第64回BCS賞

大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟

選定理由

【選考委員】
赤司泰義・嶋海雅人・松村正人

かつて繊維の街であった箕面市に、悲願であった北大阪急行の延伸が決定し、新しいまちづくりがスタートした。街区には、文化芸術劇場や商業施設も予定されるなか、大阪大学の新キャンパスが、新たな街の中核施設として位置付けられた。外国語学部の前身は、大阪外国語大学であり、箕面の郊外にキャンパスを有し、百年の歴史を誇る。企画の段階から大学が市や民間事業者と連携し、長い歴史と地域との交流を継承しつつ、広場やプロムナードなどパブリックスペースのあり方など検討を重ね、大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」を具現化した、境界を消し街に開かれたキャンパスが生まれた。

駅前からプロムナードを進むと、繊維が織り込まれているような、ま

た、人が手をつないでいるような力強いアウトフレームブレースのファサードが目飛び込んでくる。そして、大きなピロティ空間からキャンパスへと自然に導かれていく。エントランス周りには、地域との接点となる場が設けられ、大学と地域とが多様な活動を展開し、まちづくりに大きく貢献している。一方、一階北側のエントランスには、二五言語のメッセージを刻んだ石碑が象徴的に設けられ、更に旧キャンパスの遺産である「烈士之碑」「世界時計」「鉄扉」がこの地における長い歴史の継承を表現している。

アウトフレームブレースは、新しい街の顔となるだけでなく、地震力を負担しているため、内部は耐震壁がなく、一六本の細い柱のみで構成されている。それにより、プランニングの自由度が高まり、二五言語に対応する少人数教育に適した空間が生まれている。また、日本語文

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2023年で64回を数えました。

《日建連表彰2023 第64回BCS賞受賞作品》 WITH HARAJUKU / Entō / 大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備 / 大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 / 京都市美術館(京都市京セラ美術館) / シェルター・インクルーシブプレイス コバル / 渋谷 パルコ・ヒューリックビル / 清水建設北陸支店新社屋 / 新宮市文化複合施設(丹鶴ホール) / 那覇文化芸術劇場 なはーと / 日本女子大学目白キャンパス再整備 / Port Plus / 丸紅ビル / ミチノテラス豊洲 / 早稲田大学本庄高等学院体育館